

センターだより

第43号

平成28年12月20日発行

Aomori Prefectural School Education Center
青森県総合学校教育センター

〒030-0123 青森市大字大沢字野田80-2
☎017-764-1997 FAX017-728-6351

あおもり教育フェスタ2016

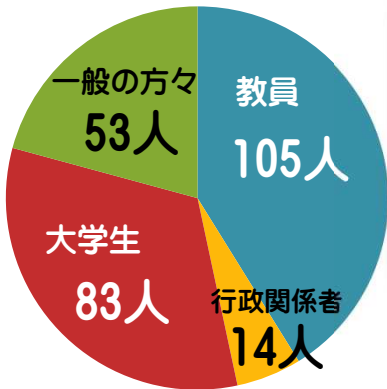
2日間でのべ**255人**の方々にご来場いただきました。
本当にありがとうございました。



アンケート結果

～たくさんのご感想をいただきました～

※詳しくは当センターWebをご覧ください。



来場された方々の内訳



講演会

子育てや教師としての指導のあり方として、4つの類型を中心に説明され、大変分かりやすい内容の講演でした。嶋崎先生ご自身の経験も時折お話しされ、教育の現場で愛情をもって指導することの大切さを改めて学ぶことができました。

プロジェクト研究発表

学校現場ですぐに活用できるように強く意識されていることを、とても嬉しく感じました。ワークショップが楽しかったですね。

指導のヒントをいただいたような気がします。様々な分野の発表を聞くことができ、よかったです。



研究員研究発表

どの発表も分かりやすく、しかも具体的な資料もあり、実践したいと思いました。いつも、研究員の先生方の発表を楽しみにしています。今回も来て「当たり！」でした。研究、発表と、本当にお疲れさまでした！
現在かかえている問題について、たくさんの方の方法を示唆していただく発表が多く、勉強になりました。学校に帰ってためしていきたいと思います。

体験コーナー

子どもが楽しめるコーナーもありましたが、大人のための文化祭のようでおもしろかったです。先生方の専門性のあるワークショップや掲示物などがとても充実していました。

専門高校による加工品販売

高校生の作った加工品（ジュースとジャム）を買いました。がんばっているのので、来年もやっていたら買おうと思います。



あおもり教育フェスタは2017年も開催します。
皆さまのお越しをお待ちしております(*^_^*)

学校現場で活用できる研究をモットーに日々研究に励んでいます！

一年目研究員の研究紹介①

白川 洋介研究員

(特別支援教育課 原籍校:青森市立東中学校)



研究主題

中学校特別支援学級(知, 自・情)における生徒指導上の課題解決能力育成のための指導プログラムの作成とその効果

研究に向けて

特別支援学級に在籍する生徒は障害の特性上、状況判断に課題があり、危険な場面に遭遇してしまうことがあります。判断力の育成にはメタ認知(もう一人の自分が少し上から自分を見つめること)が重要であると言われており、その向上に呼吸やストレッチなどの動作を中心としたプログラムを作成し、実践することで、将来の社会生活に貢献できるのではないかと考え、主題を設定しました。

研究内容

マインドフルネス(今の瞬間に起こっていることに意識を向け気づくこと)を基盤とした指導プログラムを作成します。先行研究ではADHDやASD、知的障害を有する者の粗暴行為などの問題行動の減少が確認されています。このプログラムを実践することで問題行動の減少をはじめ判断に必要なメタ認知を育成することができるのか、効果を検証します。

小西 永久研究員

(産業教育課 原籍校:五所川原市立五所川原第一中学校)



研究主題

簡易実物投影機を活用した指導方法に関する研究
- 数学的な見方や考え方の育成を目指して -

研究に向けて

ICTの活用により、「興味・関心を高め、分かりやすい授業」と「主体的・協働的な学び」が求められています。身近にある機器を組み合わせ、「撮ってつないで映す」ことができるものを簡易実物投影機としました。これを利用して、生徒が主体である数学的活動を充実させ、数学的な見方や考え方を育むための手立てとして活用したいと考えました。

研究内容

簡易実物投影機を利用し、「前時の振り返りや課題の提示など情報を共有する場面」や「言葉や数、式、図、表、グラフの特徴をつかんだり比較したりする場面」、「自分の考えに対する根拠を明らかにしながら、筋道を立てて説明する場面」における教材・教具の有効な活用方法を探り、活用事例集を作成したいと考えています。

市岡 紀恵研究員

(教育相談課 原籍校:大間町立大間小学校)



研究主題

小学校中学年における集団づくりを支援するプログラムの構築

研究に向けて

学校では、多くの児童と関わる機会があるにも関わらず、気の合う児童以外と目標を共有したり、課題を解決したりすることを苦手とする児童が増えています。そこで、仲間意識が高まる中学年の段階で、自他の認識を深めていくことが、多様な価値観を尊重し、協力し合う集団づくりに有効であると考え、主題を設定しました。

研究内容

小学校中学年の発達段階を考慮し、ソーシャルスキルトレーニングや仲間とつながる力の習得を目的としたトレーニングを中心にプログラムを構築します。

より有効で教科等においても取り入れやすいプログラムを考えていきます。

戸末 浩之研究員

(教育相談課 原籍校:南部町立福地小学校)



研究主題

小中のなめらかな接続を図るための
レジリエンスを活かした指導の在り方

研究に向けて

「レジリエンス」とは、逆境や困難に直面しても、それを乗り越えたり不適応状態から回復したりする力(能力)のことです。学校生活には、学習や人間(教師・友人)関係など様々な問題があります。それらの問題が起きても、へこたれずに乗り越え、適応していく力(能力)が、これからの子どもたちに必要ではないかと考え、研究主題を設定しました。

研究内容

「中1ギャップ」という言葉があらわすように、小学校から中学校への環境変化にうまく適応できない子どもたちがいます。小中接続期の児童生徒が、中学校という新しい環境への不安や困難に対して、それぞれのもつ「レジリエンス」を活かすことで、学校生活に適応していくことができるか、検証していきます。